

# 研修旅行

## ハノイ JETRO 訪問

### 山根 近

ベトナム到着の後、市内観光・昼食を終えた後にハノイのJETRO（日本貿易振興機構）を訪問した。守部裕行所長と森太一様からベトナム経済の概要と投資環境に関するブリーフィングを受けた後、質疑応答を行いながら経済同友会としてのミッションをこなす。

因みにJETROとは日本企業ならびに在外日系企業が海外展開をする際に、その国や地域の情報提供や投資相談を行うサポート業務を行っている。

#### ベトナムの概要と投資環境

1986年のドイモイ（刷新）政策採択以降、計画経済から市場経済への移行が進められる。中国と同様とはいかないまでも、確実な経済成長を遂げており毎年8%前後のGDP成長率を達成した。昨年のリーマンショックの影響を受けて2009年は4.8%に下落したものの、2010年度は6.5%の成長を見込んでいる。数多くの日本企業も積極的にベトナムに投資を行っており、日本政府のODAとの協調でベトナムの経済発展に寄与している。（主に電気機器、食品、繊維、化学業など）

ベトナムへの企業進出の背景には、

- ① 「チャイナプラス1」といわれるように、中国への投資が集中する中でのリスク分散先として各企業等が周辺国への選択先を広げている。
- ② 労働力が安く勤勉で優秀な人材の確保が容易である上に、政情・宗教が安定しており、治安が良い。
- ③ 初の海外進出先として過去にトラブルが多いといわれた中国を避け、ベトナムを選択する動きも見られる。  
人口8千万人という市場は、経済規模こそ決して大きくはないが、アジア主要諸国の中で中国に次ぐ経済成長率を誇るベトナムは日本企業にとって「魅力のある投資先」といえる。

ハノイ空港に降りてからしばらく続くのどかな田園地帯が、そのうち整備された工業・工場地帯に移り、「赤い川」と呼ばれる広大なソンコイ川を渡れば東南アジア独特の喧騒の町が現れる。

若者であふれた街は活気に満ちているが、それと同時に無秩序と猥雑さも併せ持つ。

一体どこに向かっていこうとしているのかは、恐らくそこに住んでいる人にも分からない。複雑な歴史を背景に、『坂の上の雲』ではなく『目の前の利益』（少しでも豊かな生活）という一点のみを見つめて前進しているようだった。



# 料理記録 藤本英次

## 【台北】

徳永玄部長の雑踏の中でのスリ捕物帳、5つ星ホテルの天井の壁落下など話題にことかない研修旅行でしたが、私は経済同友会会員として冷静に台北での70,000円の料理と、ハノイでの2,000円の料理を記録いたしました。

